

海外ポッドキャスト記事:

## Concert Technologiesに学ぶ: ICT業界の成功戦略と未来への展望



本記事は、2024年10月11日のThe Cabling Podcastのエピソード「Concert Technologies Discusses Active Project Management」の概要をまとめたものです。翻訳内容について正確な情報を確認されたい場合は、[The Cabling Podcast のオリジナル英語音声](#)をお聴きください。

ケーブリング・サート・テック  
2024年12月6日

## はじめに

ICT業界で注目される企業、Concert Technologies。その成功の秘訣や未来へのビジョンを探るため、Podcast The Cabling Podcast のエピソード「Concert Technologies Discusses Active Project Management」を基にして本記事をお届けします。エピソードでは、創設者Dennis Mazaris氏と営業・マーケティング部門のZach Haverty氏が、同社の65万件以上の技術導入を支える戦略と実績を語っています。

本記事では、以下のトピックを通じて、Concert Technologiesの戦略と未来への取り組みを詳しくご紹介します：

- ニッチ市場での成功：特化したスタートアップの戦略
- データ活用とアクティブ・マネジメントの実践
- 資格と現場経験の相乗効果
- 技術進化への対応：過去から未来へ
- スマートビルディングの未来
- 業界の未来への展望

ICT業界の進化、資格と実務の重要性、そして未来のビジョンを深く掘り下げた内容は、業界の変化に対応するヒントや新たな視点を提供するものです。どうぞお楽しみください。

---

## ニッチ市場での成功：特化したスタートアップの戦略

[タイムスタンプ: 00:10:45 ~ 00:12:30]

1995年、Dennis Mazaris氏は「デマーク延長」という通信サービスに注目し、Concert Technologiesを設立しました。この作業は、建物外部の通信回線接続ポイント(デマークポイント)から、建物内部のオフィスや設備に通信回線を引き込むものです。Mazaris氏は次のように述べています：「この小さな作業を大規模に展開することで、事業を拡大しました。」

この戦略により、最初の顧客であるSprintと関係を築き、現在では1日約300件のプロジェクトを管理するまでに成長しました。成功の背景には、プロジェクトを短期・中期・長期に分類して効率的に管理する戦略がありました。この柔軟な手法が、同社を業界のリーダーへと押し上げる原動力となりました。

---

## データ活用とアクティブ・マネジメント

[タイムスタンプ: 00:13:26 ~ 00:15:24, 00:20:20 ~ 00:21:39]

Dennis Mazaris氏は、プロジェクト管理における「アクティブ・マネジメント」の重要性を強調しています。これは、技術者とプロジェクトマネージャーがリアルタイムで連携し、効率と顧客満足度を向上させる管理手法です。

### 実際の顧客事例から見るアクティブ・マネジメントの必要性

Zach Haverty氏は、最近の顧客事例を通じて、企業が直面する課題について次のように語りました。ある企業は、400以上の拠点で通信インフラをリフレッシュするプロジェクトに取り組んでいましたが、各拠点の通信設備や関連データの不足が大きな負担となっていました。その中で、新しい拠点の取得と既存拠点の更新を同時に進める必要がありました。

Concert Technologiesは、現地で情報を収集し、その情報を効率的に整理して提供しました。Haverty氏は次のように述べています：

「この膨大なデータをどのように顧客が活用できる形にするか、これが私たちの課題でした。そして、

顧客がこのデータを運用コストの観点からも価値のあるものとして活用できるよう支援しました。」

また、顧客が他のベンダーと連携する際でも、収集したデータが中心的な役割を果たし、作業の効率化を実現しました。Haverty氏はさらに、「現在、私たちは管理会社であると同時にデータ会社でもあります」と述べ、データの重要性とその長期的な価値を強調しました。

#### コミュニケーションとアクティブ・マネジメントの融合

Zach Haverty氏は、技術者とプロジェクト管理者の間での円滑なコミュニケーションが、アクティブ・マネジメントの鍵であるとも指摘しています。彼は次のように述べています：

「技術者が現場に到着する前に必要な作業指示書や範囲を理解していることを確認し、現場でのチェックインや作業後のチェックアウトを行うプロセスが非常に重要です。」

Concert Technologiesのトレーニングプログラムは、現場の技術者がプロジェクトを円滑に遂行できるようサポートしており、毎日200～300件のジョブをアクティブに管理することで高いサービスレベルを維持しています。また、技術者が現場で適切に対応するためには、管理者が技術者と直接コミュニケーションをとり、作業の詳細を明確に伝えることが不可欠であると述べています。

「コミュニケーションが不足すると、技術者が誤った解釈をしてしまうことがあるため、現場の人たちと積極的に関わる必要があります。」

---

#### 資格と現場経験の相乗効果

[タイムスタンプ: 00:15:28 ~ 00:19:07]

資格と現場経験がそれぞれを補い合い、相乗効果を生み出すことが、ICT業界でのプロジェクト成功の鍵となっています。Concert Technologiesのもう一つの強みは、資格取得と実務経験を組み合わせた包括的なトレーニングプログラムです。Mazaris氏は、特にBICSIのRTPM資格を推奨しており、これが業界のプロジェクト管理における基盤を形成すると述べました。

この資格は、理論的な知識と実務的なスキルを補完し合う形で設計されており、Concert Technologiesのスタッフ全員が取得に向けて努力してきたといいます。これにより、組織全体の専門性が強化され、業界内での競争優位性を保つことができている。

#### RTPMとPMPの役割の違い

Mazaris氏は、ICT業界でのトレーニングにおいて、RTPM (Registered Telecommunications Project Manager) 資格の重要性を強調しました。この資格は、ICTプロジェクトに特化しており、技術的な知識と管理能力を融合した専門家を育成するものです。一方、PMP (Project Management Professional) 資格は、幅広い分野のプロジェクト管理に対応しており、ソフトウェア開発や建設など、さまざまな業界で活用されています。

Mazaris氏は次のように述べています：

「管理レベルで重要なのは、資格そのものではなく、現場でプロジェクトがどのように進むのかを理解していることです。」

#### 相乗効果を生む具体的な取り組み

Haverty氏も、資格取得の価値を認めつつ、現場での実務経験とのバランスが重要であると述べています。PMP資格を持つ専門家がICT分野の具体的なプロジェクト管理における知識を欠くことがある一方で、RTPM資格はICT分野の現場ニーズに直結しています。こうした資格を持つ人材が、現場での経験を基にプロジェクトを効果的に管理することで、組織全体の効率と専門性を高めることができます。

---

## 技術進化への対応: 過去から未来へ

[タイムスタンプ: 00:23:47 ~ 00:31:54]

### 技術の変遷と標準化

Dennis Mazaris氏は、1995年から現在に至るICT業界の大きな進化を振り返り、当時の標準であったカテゴリ5や5E規格のツイストペアケーブルの普及から始まる技術の変遷について語りました。それ以前は、同軸ケーブルやツイナックスが主流であり、現在でも一部で使用されていますが、使用頻度は大幅に減少しています。

### インフラ整備の過剰とその後

2000年代初頭の「ドットコム時代」では、建物の配線やインフラ整備が過剰に行われた時代がありました。Mazaris氏は、1996年の通信法改正がインフラ整備を加速させ、多くのスタートアップ企業が誕生し、インターネットの普及に伴う建物配線の需要が急増したことを指摘しています。しかし、この時代に整備された配線が現在でも混乱を引き起こしていることがあり、特にライザークローゼットでの課題が残されています。

### データセンターの時代と無線技術の進化

ドットコムバブルの後、データセンターの重要性が増し、業界全体が効率性と持続可能性を重視する方向にシフトしました。また、携帯電話の登場やWi-Fi技術の進化は、配線量の変化をもたらしつつ、建物内でのインフラに新たな課題を追加しました。5GやDAS(分散アンテナシステム)の普及により、建物全体での接続性を向上させる必要性が高まり、建物オーナーにとってこれらの技術が重要な投資対象となっています。

### 次世代技術への移行

最近では、イーロン・マスクのStarlinkを始めとする新しい通信技術が注目されています。T-Mobileとの契約を含め、Starlinkは副回線としての利用が増加しており、遠隔地や災害時のバックアップとしてもその価値が評価されています。一方で、ファイバー技術の重要性は依然として高く、空と地上の冗長性を確保する取り組みが進められています。

### 未来への課題

Mazaris氏とZach Haverty氏は、建物内部のインフラが引き続き重要な役割を果たすと述べています。データ主導の世界において、顧客がこれらのデータを適切に活用し、運用コストの最適化を図ることが業界全体の課題となっています。この課題に対応するため、Concert Technologiesのような管理会社が提供する効率的なデータ管理とアクティブ・マネジメントの価値はますます高まるでしょう。

---

## スマートビルディングの未来

[タイムスタンプ: 00:29:49 ~ 00:30:03, 00:45:43 ~ 00:47:12]

スマートビルディングの概念は、今や業界における避けられない潮流となっています。その起源は、1980年代に使われた「インテリジェントビルディング」という言葉にさかのぼりますが、この概念が本格的に普及するには数十年を要しました。Mazaris氏は、「パンデミックがスマートビルディングへの移行を加速させた」と述べています。

この進化の背景には、センサー技術やAIの導入による効率化が大きく影響しています。Zach Haverty氏は、建物管理の持続可能性や入居者の利便性を高めるためには、建物全体に5G接続を提供するインフラが必要であると述べています。これにより、スマートビルディングは単なる技術革新ではなく、建物の価値を高める推進力となってきました。

Dennis Mazaris氏は、スマートビルディングが普及するまでの時間の長さについて次のように述べています:

「スマートビルディングについては、40年以上も議論されてきました。話し合いを重ねてきましたが、ようやく今、それが実現しつつあるように感じます。」

さらにHaverty氏は、スマート技術がもたらすデータの価値に触れています。彼は次のように述べました：

「スマート技術が行っていることは、データを提供することです。それが誰であれ、データの背後にいる人、AI を管理している人が、『午前0時から午前4時の間に建物内の温度を2度下げる必要がある』と指示を出せるようになります。」

スマートビルディング技術は、政府規制や組織方針の影響を受けながらも、今後も確実に進化し、建物ごとの競争を促進する重要な要素となるでしょう。Mazaris氏は次のように締めくくりました：

「今後数年間で、建物ごとにお互いが競争するようになります。それがアメニティと呼ばれるものであれ、建物の所有者がこうした技術や実践を採用する傾向を高めるものであれ、長い間採用に消極的だった技術が進展するでしょう。」

---

## 業界の未来への展望

[タイムスタンプ: 00:43:41 ~ 00:45:24]

Mazaris氏とHaverty氏は、業界の未来についても考察を加えています。新しい技術の登場は避けられない一方で、それに対応するための柔軟性が重要であると強調しました。また、短期的なニーズに応じつつ、データを活用して長期的な価値を生み出す管理方法が鍵になると述べています。

## 最後に

この記事を通じて、Concert Technologiesの戦略と成功事例を詳しく紹介しました。同社の取り組みは、技術進化への対応、効率性の追求、そして未来への柔軟な視点をもとに成り立っています。

読者の皆様がこれを活用し、ICT業界の変化に対応するヒントを得ていただければ幸いです。

**執筆者:** *Cabling Cert Tech*

**公開日:** 2024年12月6日